

1 はじめに

今年度も、生徒、保護者、教職員による「令和3年度学校評価アンケート」を実施いたしました。

このアンケートは、今年度の教育活動について、本校のグランドデザインの達成状況や達成に向けた取組の適切さ等を検証するとともに、次年度への改善を図るために、学校評価として実施するものです。

今回のアンケート結果を踏まえ、本校の課題を確認し、今後、来年度に向けての改善策を検討いたします。

2 学校評価アンケート結果及び自己評価

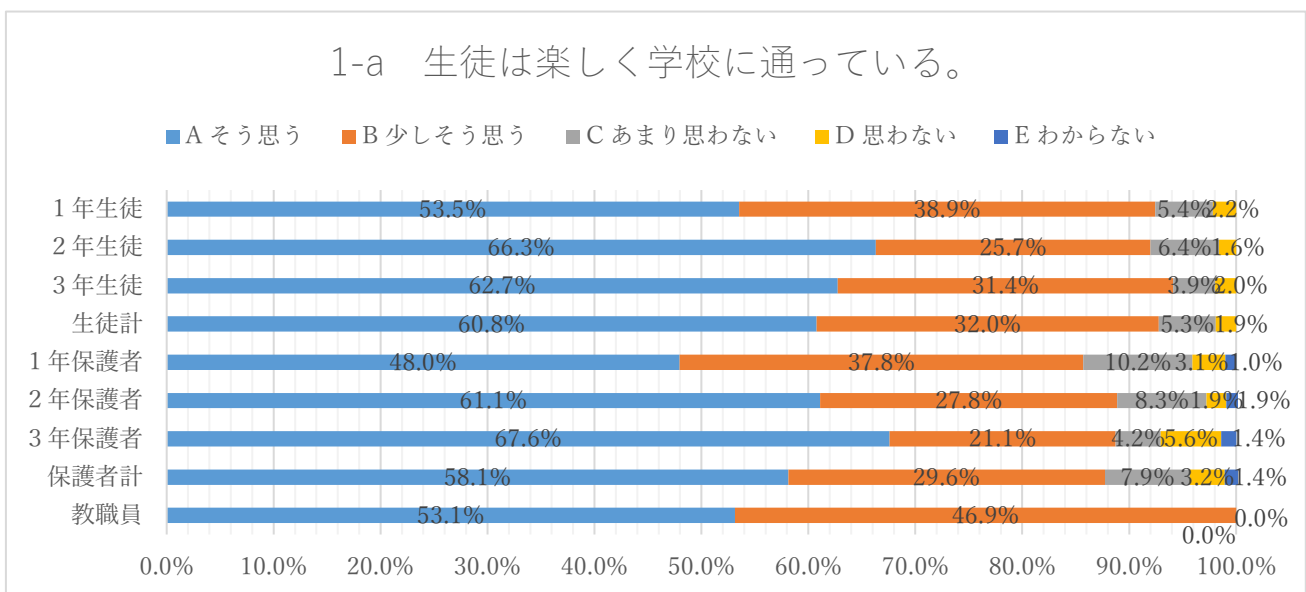
全体として保護者アンケートから、「分からない」という回答が多い結果となりました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、1学期の授業参観の中止、体育祭の参観制限、2学期の輝沼祭の参観中止があり、残念ながら保護者の皆様に来校いただく機会が非常に少なくなりました。

そのため、教職員による学校ホームページの更新、各種たより、行事の動画閲覧等、また、PTAからも生徒の学校生活について積極的に広報いただいたところですが、生徒の生の学校生活（授業の様子、学校の対応等）については、お伝えしきれていないことがわかりました。

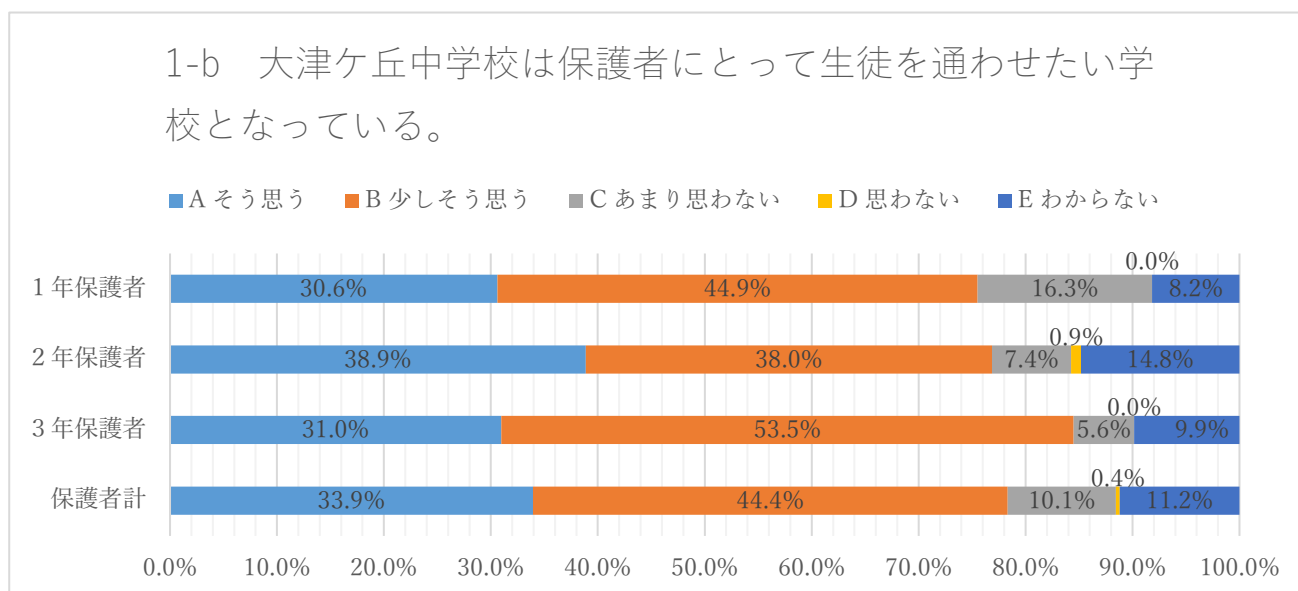
次年度の新型コロナウイルスの感染状況について予測できませんが、保護者の方に御来校いただけない中でも学校の情報が御家庭に伝わるよう広報活動を充実させたいと考えております。

(1) 目指す学校像について

■設問1-a「生徒は楽しく学校に通っている。」



■設問1－b「生徒は楽しく学校に通っている。」



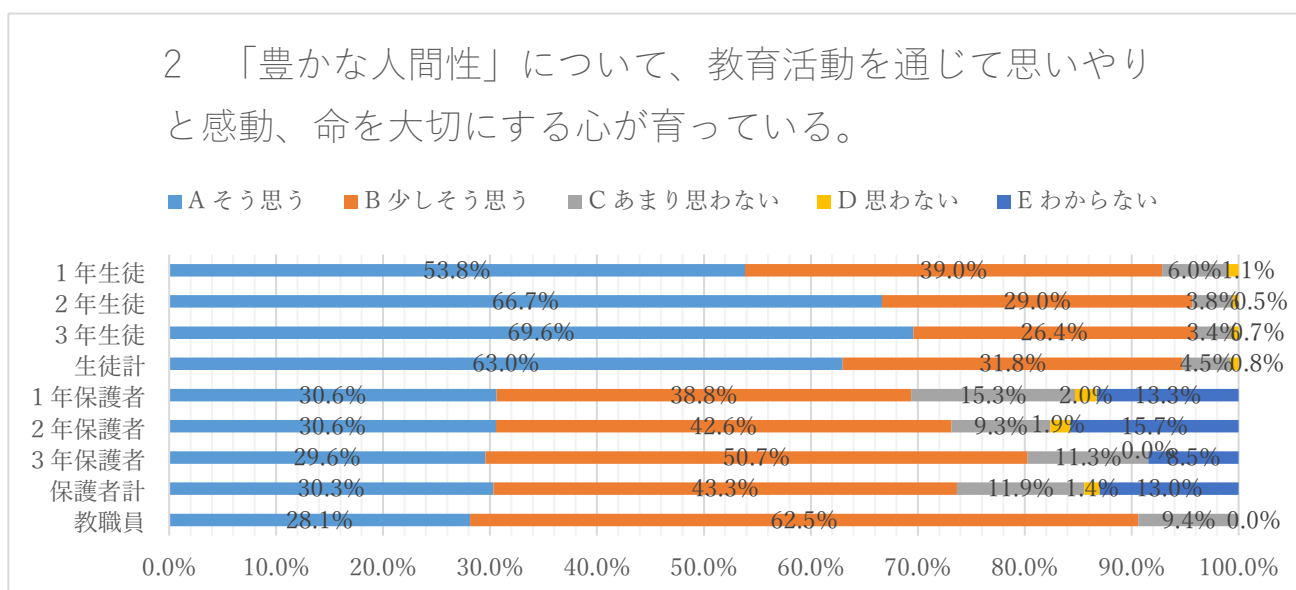
1－aについては、今年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校生活（給食の黙食等）、授業における活動（共同学習・実験・実習・歌声活動）、学校行事（体育祭・輝沼祭）、宿泊行事（林間学校・修学旅行）等において、制限や中止が相次ぐ中、生徒・保護者・教職員のすべてにおいて、好評価が8割以上、特に生徒は92%を超える結果となりました。これは、実施形態や実施方法を変更し、それぞれの活動の目的あるいは目的の一部が達成できるよう、代替活動や行事等を行ったことがその原因と考えられます。

一方、1－aと1－bを比較すると、生徒が楽しく学校に通っていても、保護者の方にとって学校を通わせたい場となっていない傾向が見られます。設問2以降における学校の指導に対する疑問や不満の結果と考えられます。

言うまでもなく、学校はすべての生徒において、「安全で楽しく、自己実現ができる場」であることを目指し、教育活動の改善を図ります。

(2) 豊かな人間性（思いやりと感動、命の大切さ）について

■設問2「『豊かな人間性』について、教育活動を通じて思いやりと感動、命を大切にする心が育っている。」

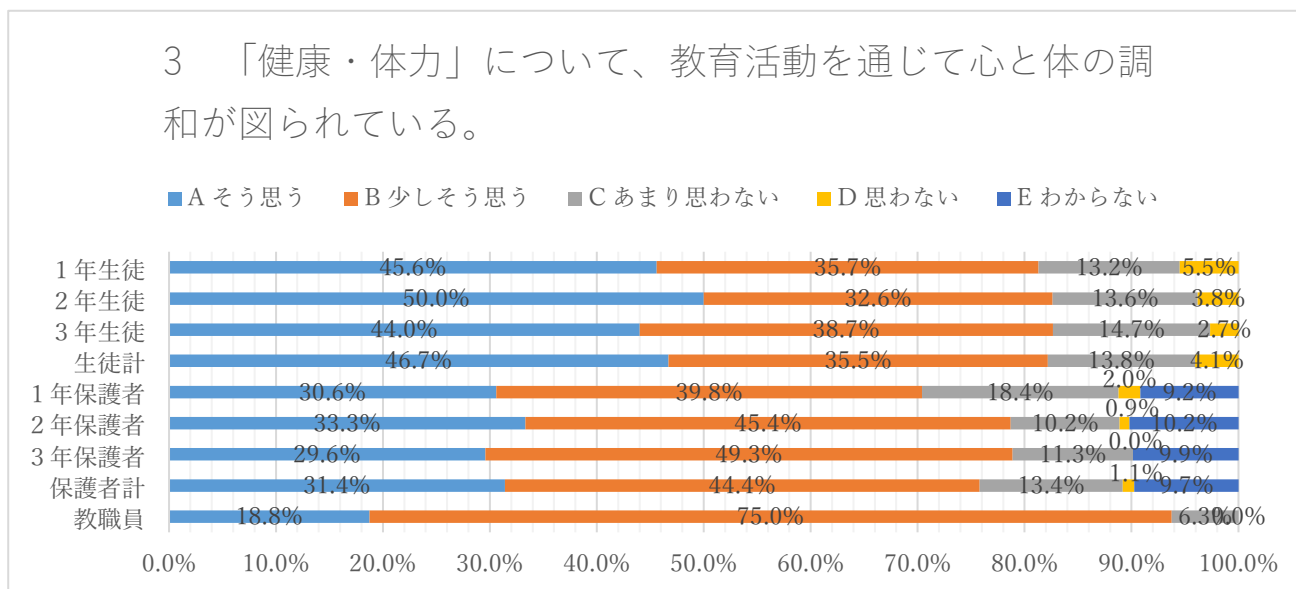


本校の学校目標である「未来を切り拓く人間力の育成」を目指し、学校生活の中でも特に道徳教育や体験活動を通じて、豊かな心を育むよう指導しています。結果を見ると、生徒の95%以上がそのような力が身につけてきていると回答していますが、保護者の方の回答を見ると、そう思わない及び分からないの合計が26%となっています。

学校生活での体験等が日常の言動には結びついていないことが考えられます。

(3) (4) 健康・体力 (コーディネーション「心と体を整える」) について

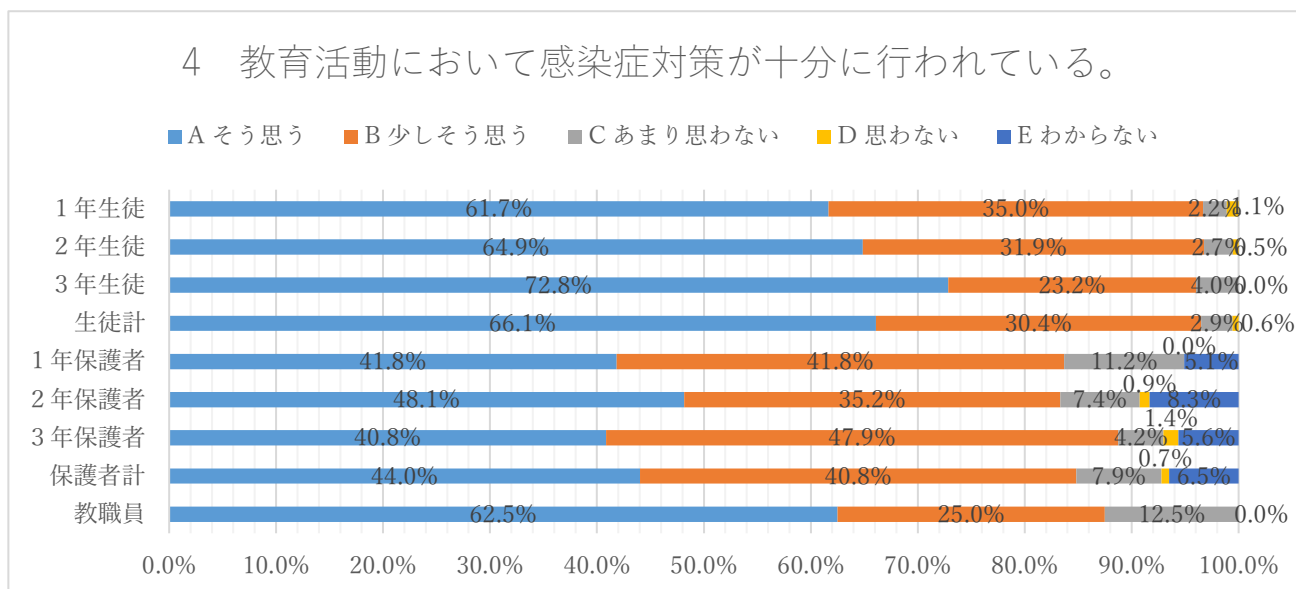
■設問3「健康・体力」について、教育活動を通じて心と体の調和が図られている。



■設問4「教育活動において感染症対策が十分に行われている。」

新型コロナウイルス感染症予防については、①感染予防、②感染拡大予防に2つが必要不可欠です。校内においては、感染レベルに応じて、マスクの着用、手指の手洗い、身体的距離の確保、感染リスクの高い活動の制限等を行ってきました。

設問4については、生徒はすべての質問項目で最高の96%以上の生徒が、十分な感染症対策が行われていると回答しています。その一方、保護者及び教員は生徒に比べ、改善の余地があると考えています。

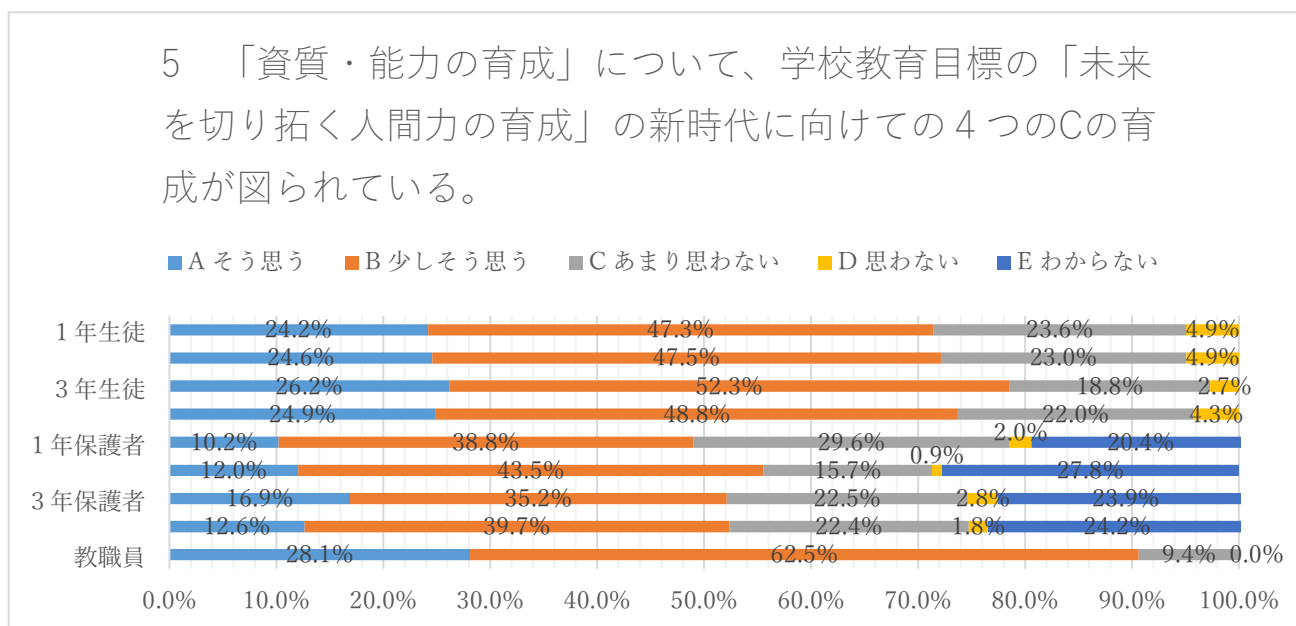


感染症対策については、保護者の方にはお子様の健康観察、健康観察票の記入、押印をお願いしてまいりました。本校が同規模の他校と比較しても、感染者数が非常に少なかったこと、また、校内でクラスターが発生しなかったことは、御家庭の協力が非常に大きかったと考えております。一方、保護者から、健康観察票の押印漏れによる再登校の危険性についての御指摘がありました。保護者の皆様の御協力により、現在では押印漏れはほぼない状況となりました。この点については、雨天時や個別の状況により、柔軟に対応しておりますので、御理解いただけますよう、よろしく願いいたします。

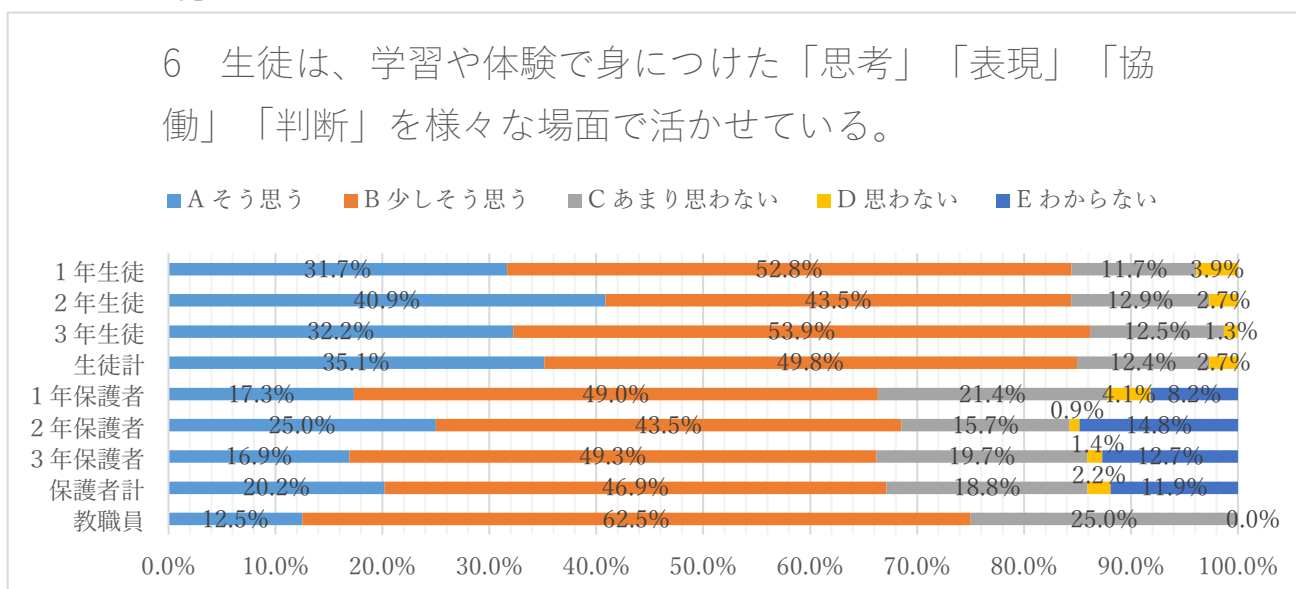
感染症対策に好評価が多かった一方、設問3の健康・体力については、生徒・保護者ともに改善の要望が見られます。全国及び千葉県の子どもの体力テストの結果が過去最低レベルとなったという発表もありました。感染症対策のため、体育の授業においても熱中症の恐れのある時期以外については、マスクを着用し、授業も身体的接触のない活動を行ってきました。また、体育祭についても、種目、時間、学年ごとの入れ替え等、多くの制限が必要でした。次年度についても、感染症の状況を踏まえ、学校の施設設備から行うことができる最善策を模索してまいります。

#### (5) (6) 資質・能力の育成【新時代に向けて4つのCの育成】

■設問5 「資質・能力の育成」について、学校教育目標の「未来を切り拓く人間力の育成」の新時代に向けての4つのCの育成が図られている。



■設問6 「生徒は、学習や体験で身につけた『思考』『表現』『協働』『判断』を様々な場面で活かしている。」



学校目標については、今年度より、現在の本校の状況と新時代に求められる力を鑑み、以下の4つの力を育成することとしました。

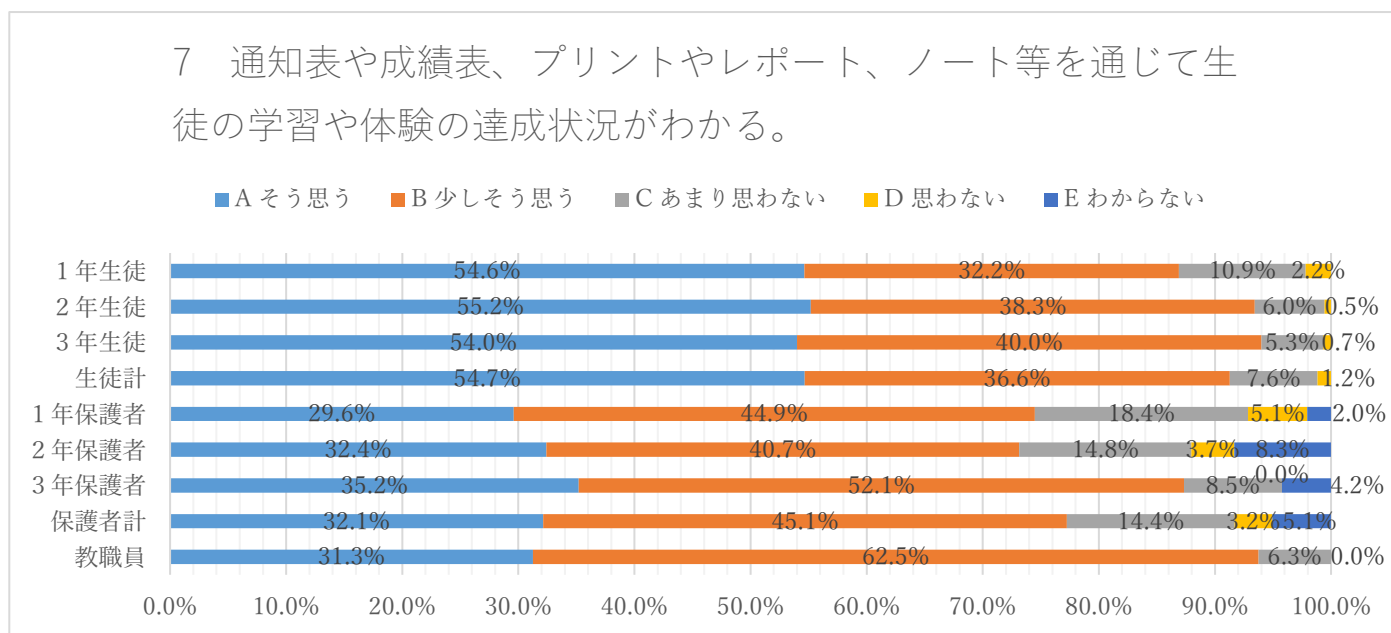
- ・ Creativity(クリエイティビティ)「自由で柔軟な発想を大切にしよう」
- ・ Communication(コミュニケーション)「お互いの考えをしっかりと伝えあおう」
- ・ Collaboration(コラボレーション)「みんなで力を合わせて問題を解決しよう」
- ・ Critical(クリティカル) thinking(シンキング)「それで本当に良いのか慎重に考えよう」

授業、学校行事、部活動等、すべての学校生活において、この4Cの育成を図ってきました。そのため、学級にも掲示し、学校行事ではどの活動がどの力の育成に繋がっていくのかの説明を行ってきました。設問5の結果と見ると、教員は90%以上が4つのCの育成について効果を感じていますが、生徒は73%、保護者は52%しか実感できていない結果となりました。今後、この「目に見えない学力」が身につくように、また生徒が実感し、普段の生活でその力が発揮できるよう取組を改善していきます。

また、設問6については、生徒の「思考」「判断」「協働」「判断」を活かしていないという回答が教員で25%いました。これについては、学校生活でこれらの力を活かす場面の設定を増加いたします。

### (7) 何が身についたか

■設問7 通知表や成績表、プリントやレポート、ノート等を通じて生徒の学習や体験の達成状況がわかる。



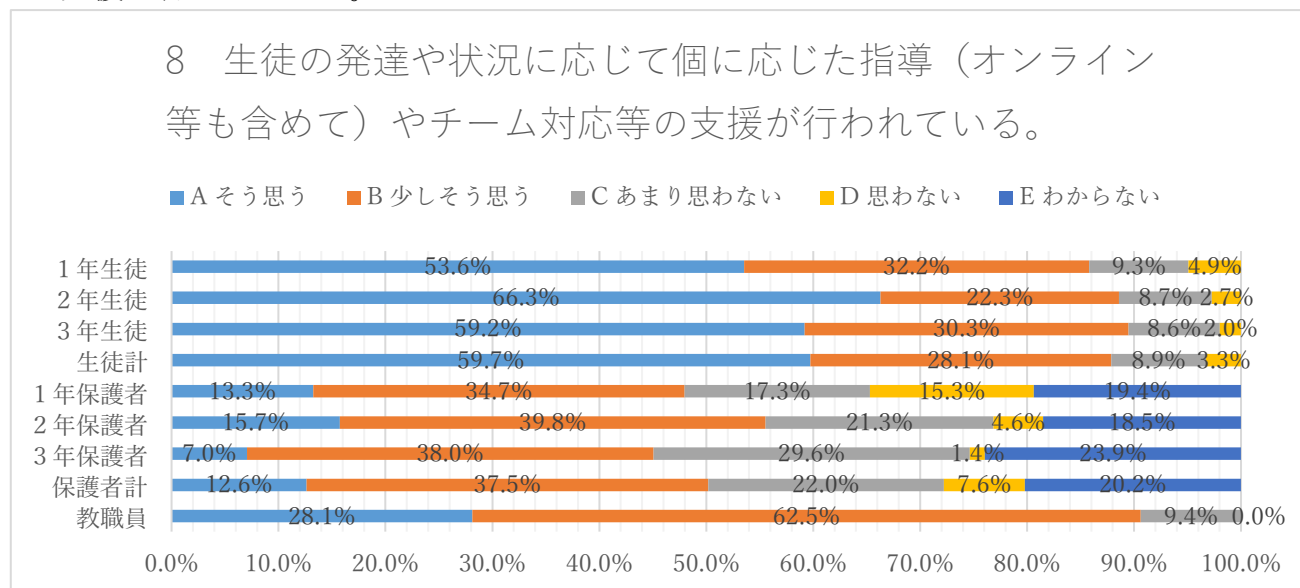
学習児童要領が変更になり、生徒が身につけるべき能力（3つの柱「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「主体的に学習に取り組む態度」）が新しく規定されました。そして、評価についても、今年度から全国のすべての中学校でその3観点による評価に変更になりました。

そのため、本校においても、定期考査の得点以外の日々の学習状況や課題提出についても、その取組について指導し、通知表等を通して達成状況を伝えてきました。生徒については、90%以上が達成状況を理解できていると回答していますが、保護者の方は77%にとどまっています。現在、次年度に向けて、よりわかりやすい評価を目指し、シラバス（授業及び評価計画）の作成を検討しています。



(8) 生徒の発達をどのように支援するか。【配慮を必要とする生徒への指導】

■設問8 生徒の発達や状況に応じて個に応じた指導（オンライン等も含めて）やチーム対応等の支援が行われている。

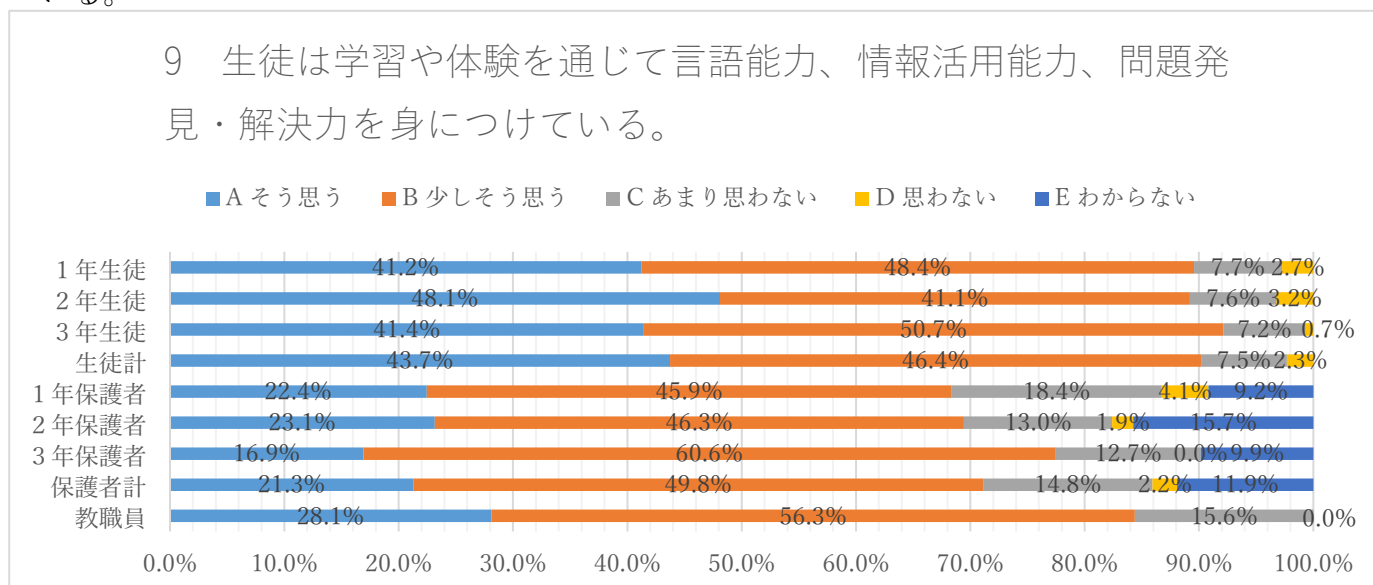


個に応じたきめ細やかな指導とチームによる対応・支援については、生徒は87%、教員は90%がそのような対応が行われていると回答したのに対し、保護者は50%にとどまり、わからないという回答も20%を超えています。

個別の生徒に対する配慮やチームによる支援については、当該者以外についてはお知らせできないこともあり、評価しにくい項目であると考えますが、今年度の取組の一部を御紹介します。今年度初めて感染症に係る登校自粛に対応したオンラインによる授業配信を行いました。30名以上が希望し、約1ヶ月にわたりオンラインによる授業配信を行いました。一方、体育や技術等の実技教科ではオンライン配信を実施できなかつたり、ネット環境によって一部配信が止まってしまうトラブルもありました。また、保護者の方からオンラインの増加についての御意見をいただきましたが、自宅でのオンラインでは、実験、実習、協働学習等、対面の授業と同等の内容を行うことが非常に困難であることから、現在は対面の授業を基本とし、必要に応じてオンライン配信を行っています。

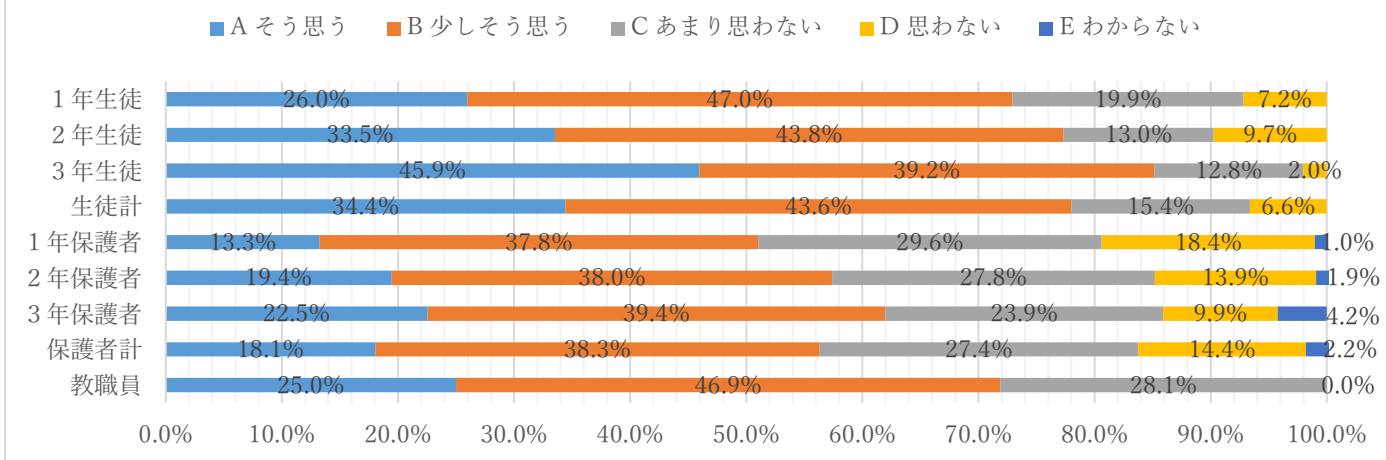
(9) (10) 何を学ぶのか。【教育課程の編成】

■設問9 生徒は学習や体験を通じて言語能力、情報活用能力、問題発見・解決力を身につけている。



■設問10 生徒は、家庭学習（自主学習・課題・読書等）や計画的なテスト勉強が身についている。

10 生徒は、家庭学習（自主学習・課題・読書等）や計画的なテスト勉強が身についている。



設問9については、生徒の90%以上が言語能力、情報活用能力、問題発見・解決力を身につけたと回答していますが、保護者は71%、教員は84%にとどまっています。設問5、6と同様に、生徒が普段の生活でその力を発揮できるような場面設定を増加したいと思います。

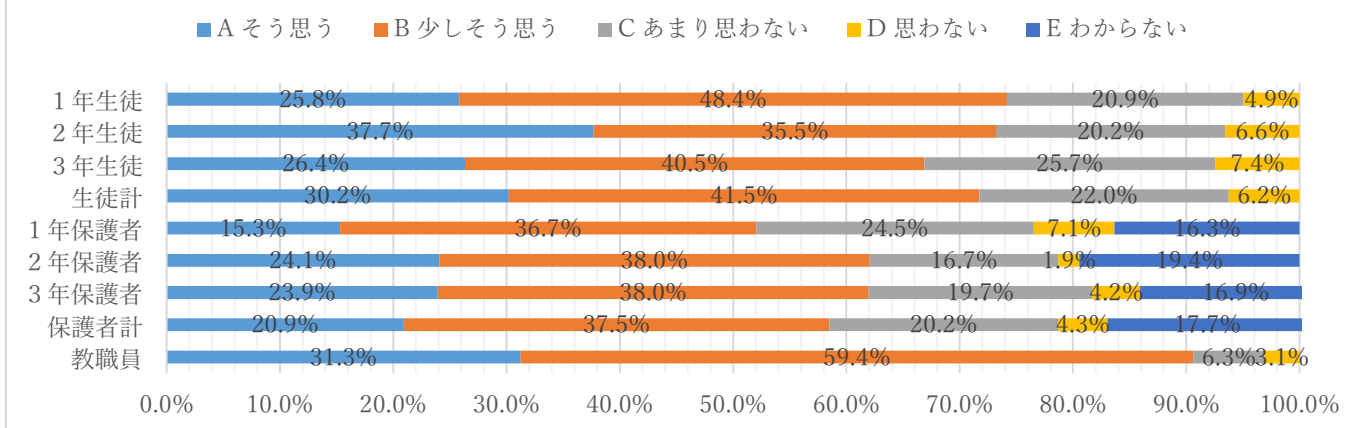
設問10については、生徒、保護者、教員すべてにおいて、身につけていると回答した割合が8割を切りました。一方、保護者の方の御意見は、「先生方のおかげで家庭学習の身につってきた。」「宿題が少なすぎる。もっと課題を多くしてほしい。」「テスト前のワークの課題が多すぎる。」「ワークに追われている。」「自主学習をどうすればいいかわからないようだ。」「以前あった勉強計画を行った方がよい。」等、お子様の家庭学習の状況にはかなり開きがあるようです。

家庭学習については、各自で目標と毎日家庭学習を行う時間を設定し、その時間の中で、宿題（学校での学習内容の深化）と自主学習（苦手教科、苦手分野の克服、受験勉強）のバランスが大切になってきます。また、どちらにおいても根底に学習意欲の向上が必要です。学校でも家庭学習の必要性を引き続き生徒に伝えながら、宿題の質・量について検討を行います。

(11) どのように学ぶのか。【教育課程の実施】

■設問11 生徒は、授業や体験活動の中で自分の考えを发表或し、表現している。

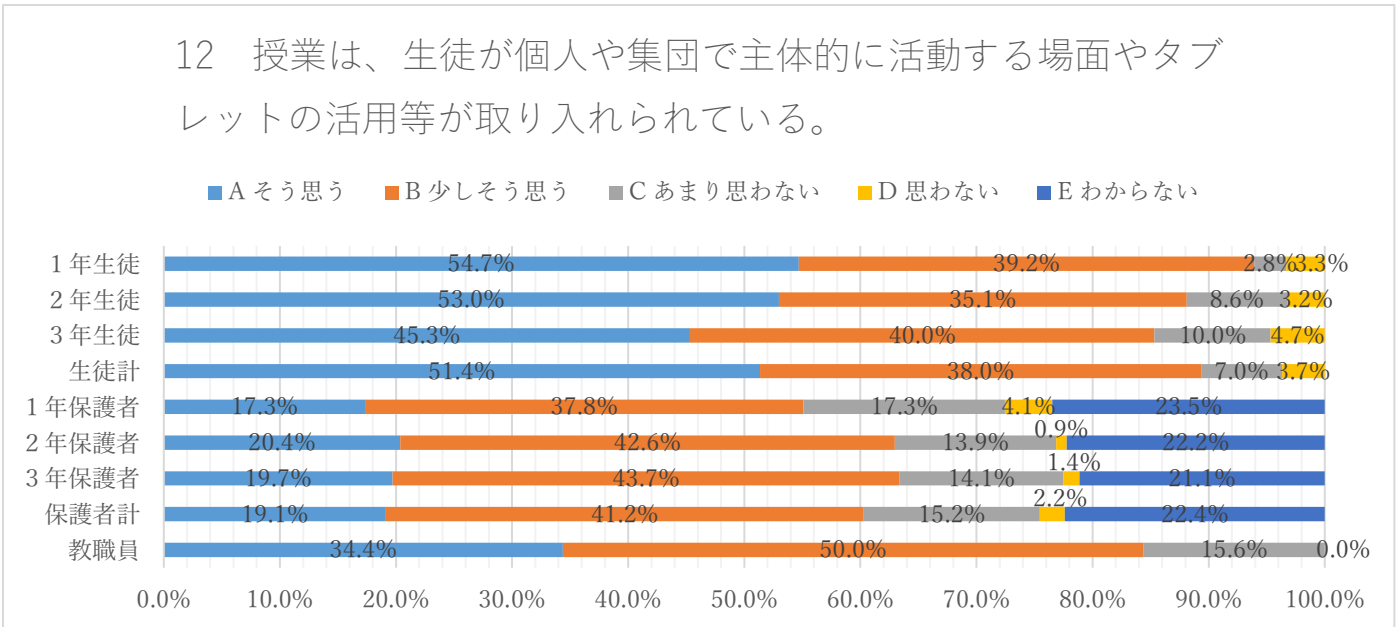
11 生徒は、授業や体験活動の中で自分の考えを发表或し、表現している。



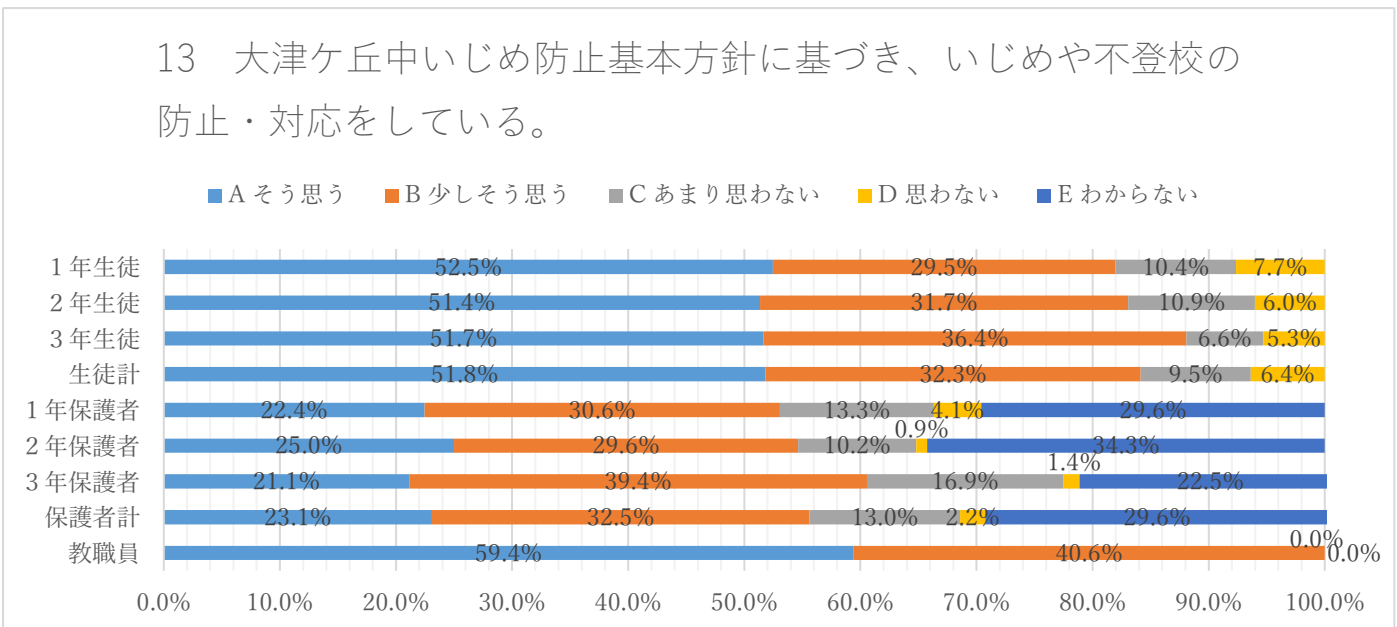
教員は90%以上が授業や体験活動で発表や表現する場を設定していると考えているのに対し、生徒は71%、保護者は58%にとどまっています。発表や表現活動の機会が不足していると考えます。授業だけでなく、学活や学校行事等においても、生徒が自分の考えを表現したり、伝える課題や場面づくりを増加いたします。

(12)(13)(14)実施するために何が必要か。【指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働】

■設問12 授業は、生徒が個人や集団で主体的に活動する場面やタブレットの活用等が取り入れられている。

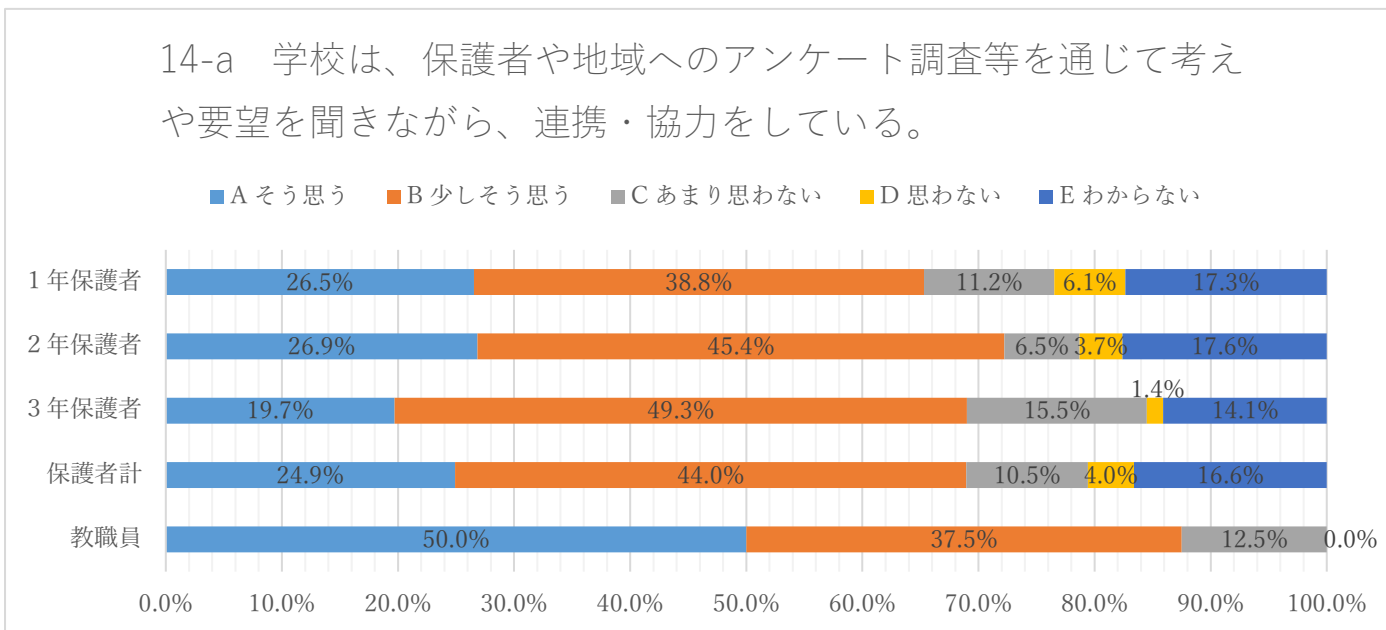


■設問13 大津ヶ丘中いじめ防止基本方針に基づき、いじめや不登校の防止・対応をしている。

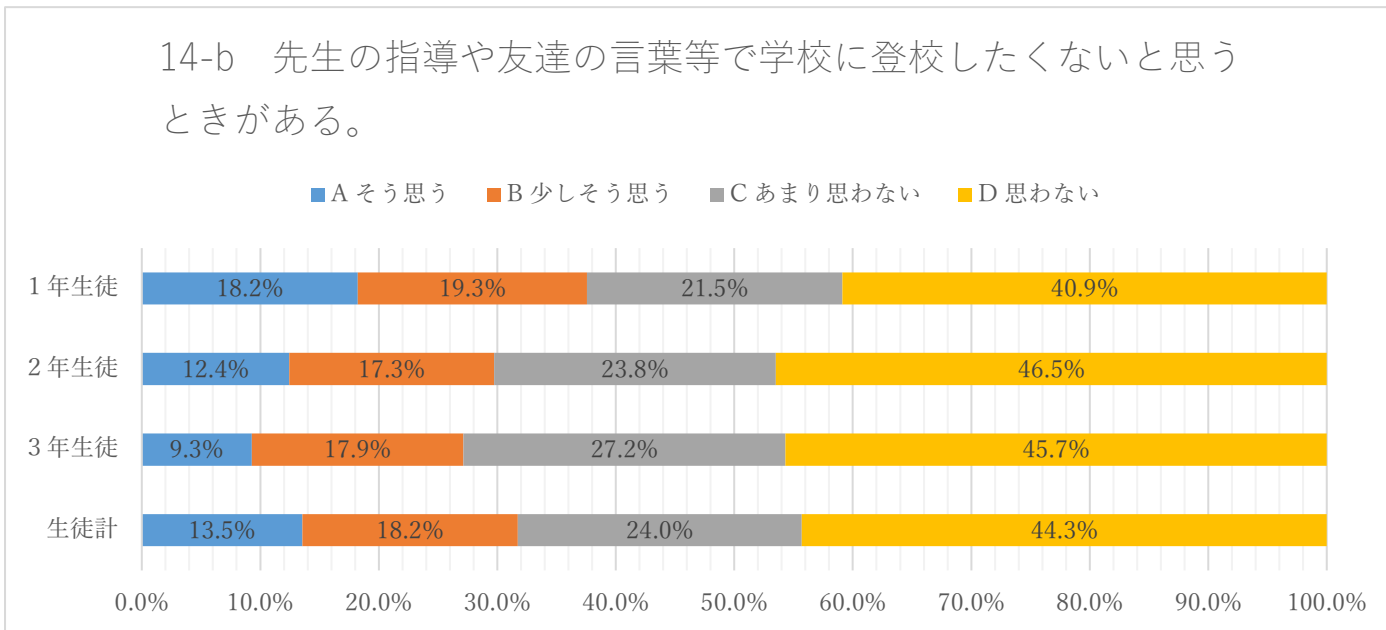




■設問 1 4 - a 学校は、保護者や地域へのアンケート調査等を通じて考えや要望を聞きながら、連携・協力をしている。



■設問 1 4 - b 先生の指導や友達の言葉等で学校に登校したくないと思うときがある。



設問 1 2 は、生徒は 8 9 %、教員は 8 4 % が主体的に活動したり、タブレットが活用されていると回答したのに対し、保護者は 6 0 % にとどまり、わからないという回答が 2 2 % に上りました。今年度は授業、クラス活動において、主体的に取り組むしかけやオンラインを活用した取組を行っておりますが、保護者には特にタブレット活用状況がわからない、活用状況が少なく思われていることがわかりました。また、今年度は修学旅行を VR 校内修学旅行とし、携帯電話端末を利用したバーチャル体験や京都とオンラインでつないだ体験学習も実施しました。なお、タブレットについては、学校内の使用だけでなく、保護者の御希望があれば、生徒が学習用に自宅に持ち帰りオンラインドリル等を使用することも可能です。

設問 1 3 については、生徒は 8 4 %、教員は 1 0 0 % が取り組んでいると回答したのに対し保護者の方は 5 5 % にとどまり、分からないが 2 9 % に上りました。学校では、日頃から、いじめのない学校を構築するため、「予防」「対応」「相談」「連携」「組織」「啓発」に努めていま

す。いじめについては、教職員や保護者の目の届きにくいところで発生することがあることから、日常の学校生活での観察だけでなく、学級担任を始め相談しやすい教職員へ相談でき、毎日の生活ノート、年3回のいじめアンケート調査等から予見及び早期発見に努めています。また、外部の相談機関も周知しています。いじめが予見されたり、発生した場合には、事情確認等を実施し、早期解決に努めています。最近ではインターネットを通じて、人間関係のトラブルが増加しているため、学校においては情報モラル教育を、御家庭においては携帯電話等に実際の使用方法等について共同して対応していく必要があると考えます。

設問14-aについては、今年度、学校教育、家庭教育、社会教育を個別に捉えるのではなく「共育」を目指し、学校、家庭、地域の役割分担と協働を目指しています。残念ながら、感染症対策のため、協働という面においては、12月のPTAの環境整備を除いては全体の活動が行えませんでした。保護者の方から面談等を通じて寄せられた御要望等については、校内で検討し、改善すべきものについては、変更いたしました。

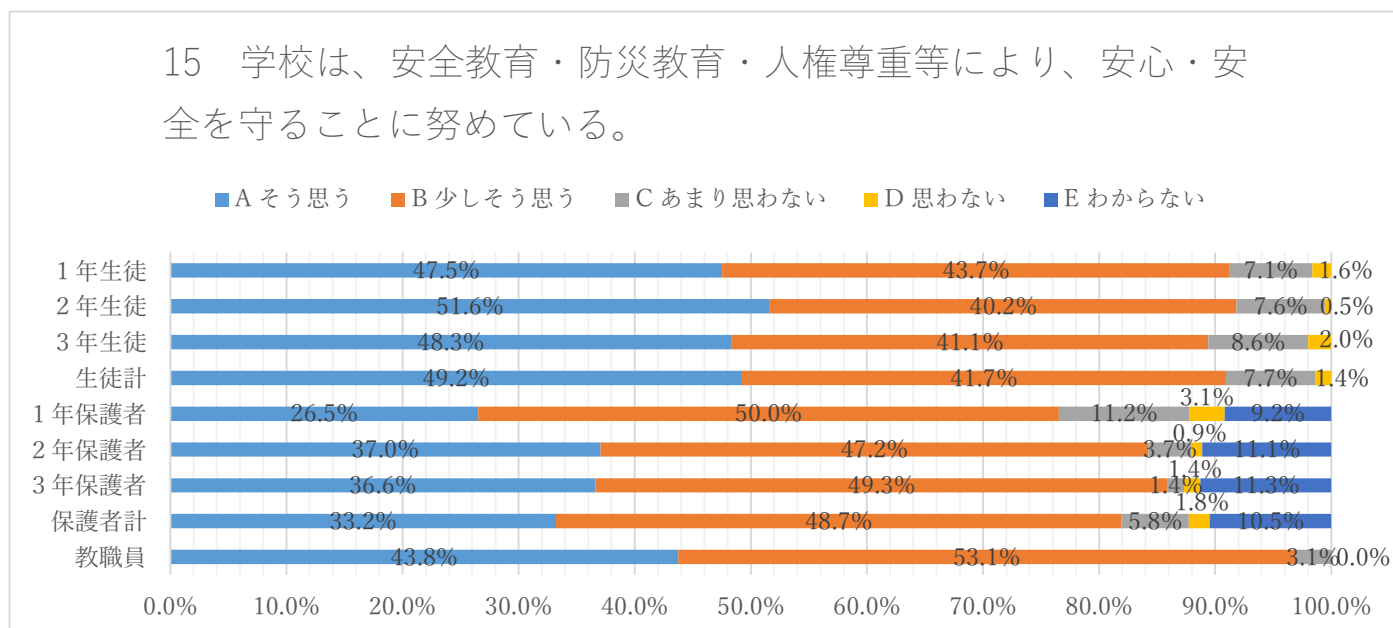
一方、感染症等に関する学校の安全対策の徹底方法や本校教職員の指導方法については、保護者の御理解を得られない場面もありました。また、地域の考えや要望については、学校行事等へ御臨席いただけない状況であったことから、以前から学校に寄せられていたもの及び今年度直接寄せられたものについてのみ対応いたしました。特に、学校付近の雨天時における保護者の送迎にかかる車の停車による交通障害については、近隣住民及び本校の自転車通学者にとっても危険な状況であることから、保護者の方の御協力をお願いしているところです。また、令和3年3月には地域の方を講師として、本校1、2年生を対象とした体験学習や職業講話を実施する予定です。

なお、役割分担については、今後、本校はコミュニティースクールへの移行に向けて、具体的に検討していきます。

設問14-bについては、27%の生徒が教員の指導や友達の言葉等で登校したくないことがあると回答しています。友人関係のトラブルや教員の不適切な指導以外でも、日常生活の中で生徒がストレスに感じている場面があり、管理職を含め、多くの職員で生徒から話を聞く場面を設けています。

(15) 安心・安全を守る。

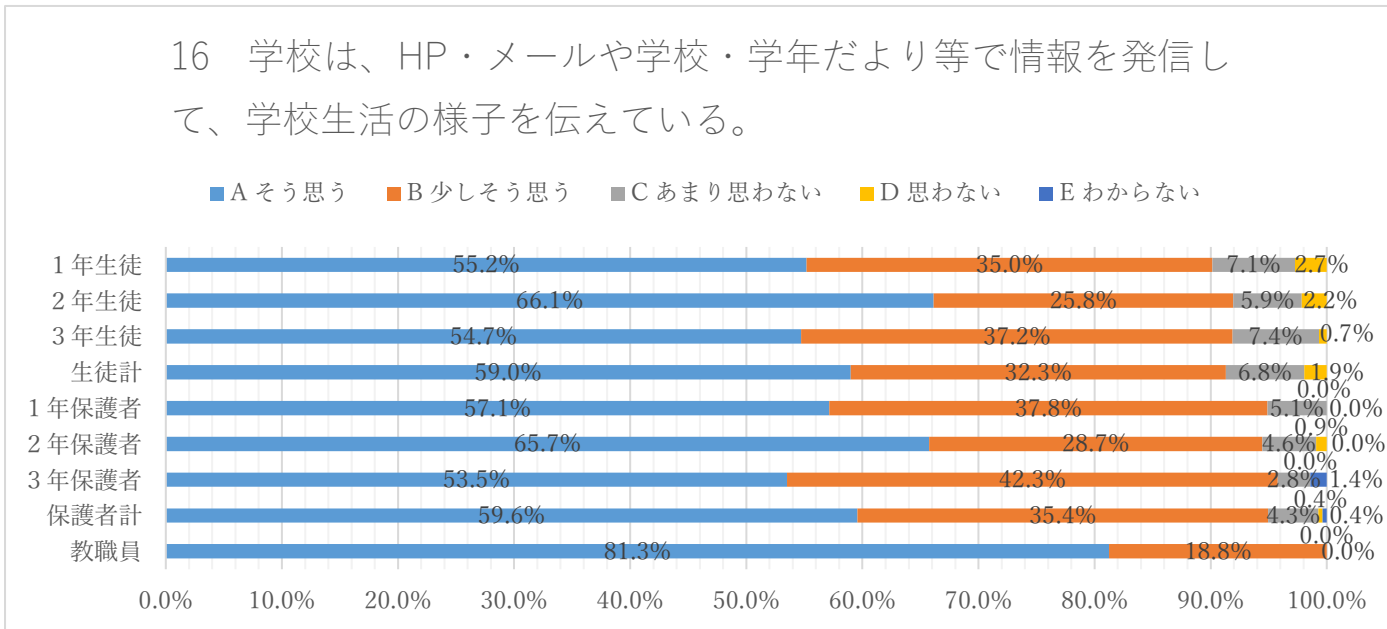
■設問15 学校は、安全教育・防災教育・人権尊重等により、安心・安全を守ることに努めている。



生徒91%、保護者81%、教員96%とすべてにおいて好評価となりました。安全教育・防災教育については自分の命を自分で守る力の育成、人権尊重の観点からは自己有用感を感じることができる集団づくりを目指しています。防災教育においては、地震等の天災だけでなく、3学期には警察官を招き不審者の侵入を想定した防犯訓練を実施いたしました。

(16) 開かれた学校づくり

■設問16 学校は、HP・メールや学校・学年だより等で情報を発信して、学校生活の様子を伝えている。



生徒、保護者、教員すべてが90%以上の評価を得ました。感染症の影響により、御家庭や地域に少しでも本校の生徒の様子を知っていただくため、ホームページについては、ほぼ毎日写真入りで更新いたしました。また、学校だより、学年通信、学級通信、進路だより、部活動等のすくすくメール等も評価をいただいたと考えております。また、毎週末にすくすくメールでお知らせしている今週の配付物については、昨年度の保護者のアンケートの記載により復活しました。

一方、項目5、8、12、13については、保護者のわからないの回答が20%以上であることから、来年は保護者の方に学校に直接来ていただく機会を引き続き検討いたします。